

今日も「一丁」あがり

第6話

自動選別計量機の選別ドラムの穴を塞げ！
とりあえず問答無用で解決せよ！の巻

皆さん、こんにちは！ 仕事はそれなりに順調なもののプライベートはズタボロ……。そろそろ夏の足音が聞こえてきそうなのに、まだ「春」を待ちわびているロブストス高垣でございます。

さて、先日の話ですが、東京でとあるイベントを見学してきました。いわゆるテクノロジで農業を活性化しようというビジネスコンペの一つで、3日間で集中的に市場調査をして事業計画を立てるといったものでした。どこかで聞いたことのあるような案が多かったんですけど、農業に変化を起こそうと息巻いている若者の集まりが新鮮で。開催場所のヤフーのコーキングスペースには「無理だ」とか「限界だ」みたいな雰囲気は一切ないんです。意地悪く言えば現場感がないんですけど、なぜか「何もわかってない」などと断じる気は起きず、「何かできるはず」という想いに純粹でいられるのは素晴らしい。農業界にもこのノリを積

極的に取り込まないといけないですね。もっと工夫しよう、あらゆる可能性を模索しよう、と僕も気持ちを新たにできました！

「早く」「安く」より大切なこと

今回はアナログな依頼案件を紹介しましょう。「飼料用米を袋詰めするにあたり、所有している選別計量機の選別ドラムの穴を塞いでほしい。理由はどうあれ、問答無用で塞いでくれ」という農家さんの要望でした。弊社には、難しい部品加工だけでなく、実にいるいろいろな依頼があるんですよ。今回のようなオーダーをもらったら皆さんはどう解決します



写真1：自動選別計量機の選別ドラム



写真2：サビに強くて安い、ガリバリウム鋼板



写真3：さまざまな用途で活躍する、荷締めベルト



写真4：穴を塞いだ選別ドラム



高垣達郎（たかがき・たつろう）
1984年アメリカ生まれ、東京都大田区の町工場街で育つ。2011年に株式会社ロブストスを創業し、農林水産業機械のワンオフ対応を軸に、独自のサービスを構築。A-1グランプリ2011グランプリを受賞。群馬県を拠点に、機械メーカー・ディーラー・農協・農業生産法人など、全国的に取引を拡大している。株式会社ロブストス代表取締役社長。

か？ 僕はね、ホームセンターにちよいと寄り道して、材料を調達して、ドリルドライバーでガガガガガッ!!という方法を選んでみました。アルミテープなどで巻くのもありかと思っただんですけど、コストもかかるし、それよりは後で外しやすいうようにと考えてみたんです。
【今回の工程はコチラ】
①ホームセンターでガリバリウム鋼板（トタン屋根の材料に使っサビに強くて安い材料、約1800円）を購入
②荷締めベルト（約500円）を購入
③鉄工所でガリバリウム鋼板を切断
④荷締めベルトでガリバリウム鋼板を選別ドラムに縛り付ける

⑤ドリルドライバーでビス止め
これでバッチリです！鼻歌まじりにチャチャッと完成~~~~
と、ちよつと待てっ……（焦）。食品機械にネジ類はご法度でしょ！構造的に中に落ちなくてもビス止めは避けるべきだし、そもそもガリバリウム鋼板の塗装は大丈夫なんだっけ!? コストをかけてもステンレス板を巻くべきだった。でも、スポット溶接は条件が合わないし、薄板を溶接できる工場は限られる。頭を悩ませ、もう一度やり直すつもりで現場に向くと、「試しに使ってみたら選別というよりゴミも抜けないから、やっぱり穴は塞いじゃダメだね（笑）。今回はサンキュ〜♪と農家さん。ひとまず安心したものの、農業現場の早く安く対応してほしいというニーズに応えるだけでなく、消費者の「安全」も考えるべしと反省した案件でした（汗）。教訓は、現場で誠実に腕を磨くべし!!ですね。ということで、今日も「一丁」あがり~~~~